

平成 24 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

作業療法らしさの認識状況と
作業療法士の職業的アイデンティティの関連

学位の種類： 修士（作業療法学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法学域

学修番号：01896605

氏名：原田美美

（指導教員名：小林法一教授）

【目的】専門職の実践の基盤として、職業的アイデンティティ（以下職業的 ID）の形成が重要であると考えられている。今回、職業的 ID の中で、アイデンティティを構成する要素の一つである「斉一性」に焦点を当て、「作業療法らしさ」の認識状況と職業的 ID の関係を明らかにすることを目的に調査研究を行った。

【方法】臨床で勤務している作業療法士 7 名を対象に「作業療法らしさ」をテーマにフォーカスグループインタビューを実施した。それにより抽出された 28 項目と職業的 ID 尺度、基本属性等からなるアンケートを作成し、臨床で勤務している作業療法士 405 名に配布し、回答を求めた。「作業療法らしさ」の質問項目は「重要度」、「実践度」それぞれに 7 段階のリッカート式で回答する質問紙を用いた。

【結果】回答者数は 205 人で回収率は 50.6%となった。今回作成した質問項目の重要度および実践度、職業的 ID 尺度のすべての項目に回答のあった 174 名を分析対象とした。「作業療法らしさ」の因子構造を検討したところ、「作業療法士としての役割の自負」、「対象者に貢献する存在としての認識」、「作業療法士独自の視点」、「作業療法らしい介入」、「対象者中心の支援の実施」という 5 つの因子が抽出された。それぞれの信頼性係数は、下位尺度で 0.69～0.89、尺度全体で 0.94 となり、尺度としての内的一貫性が確認された。

相関分析を行ったところ、「作業療法らしさ」の下位尺度はすべて職業的 ID 尺度と有意な相関が確認された。臨床経験年数別に職業的 ID 尺度、および「作業療法らしさ」の尺度の合計点数の平均値を求め、経験年数別の比較・検討を行ったところ、臨床経験年数別の職業的 ID 尺度と「作業療法らしさ」の尺度の変化が同様に推移していることが確認された。

【考察】今回の調査結果より、「作業療法らしさ」と作業療法の職業的 ID の高さには関連があることが確認された。「作業療法らしさ」の下位尺度の中でも、第 3 因子である「作業療法士としての視点」が職業的 ID 尺度のすべての下位尺度と最も強く相関していた。このことにより、作業療法士独自の視点を確立することが、職業的 ID 確立のために最も重要となると考えられる。また、「作業療法士独自の視点」は、臨床経験年数別の職業的 ID 尺度の平均得点の比較により、平均得点の最も低下した臨床経験 2 年目においてもほとんど低下することなく、3 年目には上昇している。そのため、「作業療法士独自の視点」は初期のアイデンティティクライシスにおいて重要な要素となると考えられる。今回の調査は個人を時系列で追ったものではないので、個人個人のアイデンティティの変化がどういったものに影響を受けどのような経過をたどるかについては、今後更なる検証が必要と考える。